

GH 白山		主題	グループホーム入居者の良好な人間関係とは	
良好な人間関係		副題	私の思い違いなのかしら・・・	
共同生活の質				
研究期間	6ヶ月	事業所	グループホーム白山	
発表者：ホーム長				
共同研究者：グループホーム白山メンバー				
電話	042-470-4630	メール	hakusan@shalom-tokyo.n	
FAX	042-470-4830	URL	www.shalom-tokyo.net/	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	グループホーム白山は東久留米市滝山にある、9名（男性4人・女性5人）のご入居者様と犬一匹（コロ）で楽しく、和気藹々と暮らしている1ユニットのグループホームです。今年で10年めを迎えるグループホームです。それぞれが役割分担を持って、助け合いながら生活をしています。
------------------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>普段は9人力を合わせて、和気藹々と暮らしているグループホーム白山ですが、日々の生活の中では様々なトラブルが起こります。</p> <p>もちろんそれは、当たり前のことなのですが、できれば皆がいつでも仲良くしていただきたいものです。「私だけ〇〇職員さんは話をしてくれないのよ・・・私のことが嫌いなのかしら・・・」「あなたはなにをやっているのよ、グズなんだから・・・」「もっとチャントやってよね・・・」等々、他の入居者を傷つけたり、周りの利用者の人たちが嫌な気持ちになってしまうことがあります。</p> <p>そこで、私達ができるケアはなにかを考えていきたいと思っています。その方の生活歴・性格・考え方・認知症による周辺的な症状等を分析しながらその人がイライラせず、ストレスや寂しさを感じることなく生活して頂く対応や言葉かけを考えました。</p>
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>白山の入居者が楽しく過ごし、できるだけイライラせず、おだやかに過ごせる環境づくりをしていくために私達職員ができる対応と環境を考えていきたいと思っています。</p> <p>目標はグループホーム白山の皆さんが笑顔で「いつまでもここに居たい」と思っただけの場所になるようにしたいと考えます。そのために職員ができる対応を考えていき、ある程度職員が同じ対応や声かけができるようにしていきたいと思っています。</p> <p>さらに、入居者の自己決定・自主性を引き出せるような対応や声かけを実践していきたいと思っています。</p> <p>グループホーム白山が入居者にとって、居心地の良い、「故郷」のような場所になるようなケアを職員全員で目指していきたいと考えます。</p>
--

《具体的な取り組みの内容》

訴えの多い利用者や相手を非難することが多い入居者に様々な対応を試みる。

具体的には声かけを統一してみる。そして、相手を非難したり、妄想的な発言が出現した状況を分析してみる。

場所・時間・対象者・そして、その後どんな対応をしたのかを経過観察をしながら分析・整理を試みる。

(入居者)

- それはいつ起こるのか・・・
- それはどこで起こったのか・・・
- その頻度はどれくらいか・・・
- 口調はどんな感じだったのか・・・
- 表情はどんな感じだったのか・・・

(職員)

- どんな声かけがいいのか・・・
- どんな口調がいいのか・・・
- どれくらいの距離がいいのか・・・
- どんな表情がいいのか・・・
- どんなボディタッチがいいのか・・・
- した方がいいのか・・・
- しないほうがいいのか・・・

双方の立場で観察し、考察を試みる。
パターン性があるのか、突発性のものなのか
性格的なものなのか、病気に関係していること
なのか等をまとめてみる。

《取り組みの結果と評価》

〈台所での場面〉

今までは全員に聞こえてしまうような大きな声で声かけをしていました。今回はその人だけに聞こえるように声かけを試みました。さらに、言葉だけでなく、実際にしてもらった作業を職員が最初実際に見せて、「こんな作業ですがいかがですか?」と聞いてみるにより入居者が気軽に作業に参加することができるようになりました。

〈玄関飾りつけの場面〉

入居者が自信を持って取り組める作業を依頼することにより、その方が自信を持って様々なことに取り組むようになりました。そのことでストレスが軽減され、イライラ感や大きな声で他入居者を非難する場面も極端に減りました。

《まとめ》

私達グループホーム職員は24時間365日をバラバラにパーツのような形態での支援をしています。そんな中で入居者の方はホームの中で入居者の9人とめまぐるしく変わる職員と特殊な環境の中生活をしていることを自覚しなければなりません。私達はそんな入居者の人たちにとって大切な環境の一部になっていることを実感し、改めて個別ケアについて考えていきたいと思っています。

《提案と発信》

グループホームで働く職員は入居者にとって大切な環境だということを理解して、普段のケアについてさりげないケア・受容・共感・統一したケアを目指していかなければならない。

【メモ欄】